

アザレアのまち音楽祭2014

マトリックス評価表

ミ	理想追求型		理想的ゾーン	
ッ	⑦	⑧	⑨	⑩
シ			⑧	⑨
ヨ	⑤	⑥	⑦	⑧
ン		⑤	⑥	⑦
↑	④		⑤	⑥
↓	③	④	→経済尺度	
			④	⑤
	①	②	③	④
	①	①	②	③
	最悪ゾーン		利益追求型	

(縦軸は定性評価 横軸は定量評価)
演奏レベルの高さ 観客動員数
①~⑩の番号は評価点。最高は⑩

マトリックス評価表

ミ	理想追求型		理想的ゾーン	
ッ	⑥	⑦	⑧	⑩
シ	⑥	⑥	⑦	⑨
ヨ	⑤	⑥	⑥	⑧
ン	④	⑤	⑤	⑦
↑	④	④	⑤	⑥
↓	③	④	←	→経済尺度 ⑤
	③	③	③	④
	②	②	③	④
	①	①	②	④
	①	①	②	③
	最悪ゾーン		利益追求型	

(縦軸は定性評価↑ 横軸は定量評価→)
演奏レベルの高さ 観客動員数
①~⑩の番号は評価点。最高は⑩

評価の仕方⇒プログラム構築・演奏のレベルによって総合的な評価を縦軸で観客動員数の基準に照らし評価

- サロンの基準値は 70 人
- 小ホール基準値は 200 人
- ホールの基準値は 700 人 ()は昨年度

オープニング・ナイトガラ・コンサート 入場者数 70(32)

	⑨⑩ ⑧⑧⑧⑧

[コメント/今年は、様々の取り組みを試み、結果が出たようです。本気になって来ていただきたい思いを発信すれば、伝わるものだと思います。評価8点]

- ・賑やかで楽しめる会になった。
- ・今までに一番多くの来場があった。新人を出演させるなど工夫がある。
- ・会場も満席で行って聴いてみたいと思えたコンサートでした。抽選会も楽しめた。
- ・器楽の演奏者の参加も欲しい。
- ・経験者と新人、それぞれのカラーが微笑ましい。

【オープニング・コンサート】 入場者数 738(766)

	⑨⑩⑩⑩ ⑨⑨

[コメント/今年のオープニングは、米子第九合唱団の素晴らしい演奏があつての高い評価だったと思います。仲良しクラブで、楽しみながら演奏することを楽しむのもいいですが、聴衆たるお客様に本物の音楽を紡ぎだす篤い努力の結晶をお届けし、その素晴らしさに感動して頂くのが、アザレアのまち音楽祭の真骨頂だと思います。いくら努力の跡が見られても、第九合唱団の様な真摯な音楽づくりがなければ、本当の感動にはならないと思いました。それにしても、とんでもなくレベルの高いソリストが揃い、指揮者の想いを十全に表現できたオーケストラの存在は、鳥取県の宝物だと思います。評価9点]

- ・ソリスト、合唱団ともにレベルの高い演奏だった。
- ・合唱と演奏が素晴らしかった。
- ・ソリスト目当てにお出でになったお客様も多く、直接ホール内で聴かれませんでした。CDで楽しみました。
- ・入場者の多さには、うれしい悲鳴。
- ・合唱の素晴らしさ、満足。他の曲は裏方で聴けませんでした。

【鶴崎千晴ソプラノ・コンサート】 入場者数 68(89)

	⑨ ⑩ ⑧⑧ ⑦

[コメント/鶴崎氏はまだまだ進化を続ける演奏家であり、今後がまだまだ期待できます。評価8点]

・前半のバロックが今一步だったが、後半の日本歌曲は心にしみた。

・プログラムの作り方、歌声が素晴らしい。

【光長真理恵ソプラノ・コンサート】 入場者数 86(89)

	⑩ ⑨⑩ ⑦

〔コメント／歌唱力の素晴らしさは既に定評となっています。これからは、自分の特性に合った楽曲を探され、新しい領域を模索されることを望みます。評価⑨点〕

・立ち姿、歌声共に優しく、美しかった。

【須々木竜紀チェロ・コンサート】 入場者数 62

	⑧⑧ ⑤

〔コメント／大変うまいのだが、音楽の間かせ方に工夫がない。巧さをもっとアピールするコンサートにすべきだと思いました。評価⑦点〕

・初めてのコンサートで、入場者数を案じた。

【パープルタウン/中学生】 入場者数 300(200)

	⑨ ⑦

〔コメント／合奏の基本は、まず音の立ち上がりが揃うこと、ピッチが合う事、この二つは、練習次第でどうにでもなります。まず基本的な問題の共通理解と練習会の成果を確実にものにするを目標して頂きたい。評価⑤点〕

・定着したように思う。

【新田恵理子ピアノ・コンサート】 入場者数 170

	⑧ ⑥⑥ ⑤

〔コメント／今回の演奏は、これまでの演奏に比べ、見るべきものがなかった。演奏は、交通事故のようなものだから、不可抗力の場合も多々ある。しかし、あんなに再三のミスは、どんなにひいき目に見てもいただけない。演奏のための準備が出来ていないのであれば、止める勇気も必要だと思った。このままでは、評判を落とすこと

となる。評価⑤点〕

・準備不足で、集中力にかけていた。

・観客があまりに多くて、先が案じられる。

【アザレア弦楽四重奏団・コンサート】 入場者数 43(69)

⑦	
⑤⑥	

〔コメント／マンネリ感が否めない。20年以上にわたって演奏し続けているが、その間の研鑽があったのかなかったのか分かり辛い。つまり、上手くなっていない。毎年聞いて、わくわくする感動を提供してほしい。よく頑張っているが、限界が来ているように感じさせる。今ある力量で可能な楽曲を深く掘り下げ、聴衆の心をえぐるような演奏は可能だと思う。一言でいえば、練習不足。アナリーゼ不足。表現力不足と思われる。評価⑤点〕

・感動がない。

【村岡苑子チェロ・コンサート】 入場者数 87(121)

	⑨⑩ ⑨⑨ ⑦

〔コメント／技術的に素晴らしいものがある。演奏に必要ないろいろな様式感を持った表現力は、見事なものである。もうそろそろ、借り物でない、自分の表現を模索する時期でないかと感じた。アイドル的な美しさから、にじみ出る自分の音楽表現をモノにしなければ、優秀な学生だけで終わってしまう。ガンバレ！評価⑧点〕

・チェロ、ピアノ伴奏共にハイレベルな演奏で大満足。

・とても楽しみな方。

・若さあふれる(アカデミックな)演奏。アンコール曲と最後の一言でほっと…。

【道谷増夫サクソフォン・コンサート】 入場者数 35

⑦⑦ ⑤	
④	

〔コメント／技術的な癖が悪い方に感じられる。クラシック・サクソの音は、絹のようなディテールが欲しい。それが無いのが難点。演奏力、表現力は抜群にうまいが、音の肉体たる音響の豊かさ、音色の美しさが欲しい。音楽は、何よりも音を聴いただけで心が動かなければ、音楽にならない。音作りに再挑戦すべきかも。評価⑤点〕

・演奏、編曲共に素晴らしかったが、動員不足。

【山城裕子ピアノ・コンサート】 入場者数 92(86)

	⑩⑩ ⑨⑩

〔コメント／山陰地方で、これほど弾けるピアニストを私は知らない。聴くたびに、どんどん進化し続けている。〕

評価⑩点

- ・素晴らしい表現力と集中度の高い演奏。圧巻でした。
- ・演奏は素晴らしい。プログラム変更で混乱もあった。
- ・安定してきている。

【小椋順二ホルン・コンサート】 入場者数 56(67)

	⑨ ⑧
	⑥

〔コメント／気が緩むことはないと思うが、ミストーンが多すぎる。プロは、完璧に演奏して当たり前の世界です。音楽づくりや、ホルンの音には全く問題はありませぬ。どんなコンサートでも、プロは完璧に演奏すべきです。評価⑦点〕

- ・もう少し入場者数が欲しい。

【中野隆尺八コンサート】 入場者数 54

⑦ ⑥⑥⑥	

〔コメント／アマチュアでよく頑張っている。よく練習もしている。木訥な演奏をするだけで良い。評価⑥点〕

- ・話が長すぎた。
- ・琴がなければ…どうなるでしょうか。
- ・一年一回の邦楽。尺八も箏も落ち着きます。

【ブレーメン・コンサート】 入場者数 350(90)

	⑧⑧ ⑧

〔コメント／自分たちが楽しんでいる姿は、聴いていて清々しいものです。しかし、聴く者たちが音楽の拮抗作用を感じて楽しめる演奏にすることが、今後の課題だと思う。評価⑦点〕

- ・定着している。

【岸本聖華ピアノ・リサイタル】 入場者数 95

	⑧⑧⑨ ⑦

〔コメント／よく練習している。今後の活躍が期待できます。評価⑦点〕

- ・集中力が高く、良く準備されていた。
- ・次が楽しみ。

【高木伶ピアノ】 入場者数 80

	⑧⑧⑧

〔コメント／よく練った演奏をしていた。今後に期待できる。評価⑦点〕

集中力のある好演だった。

【銭亀睦美ソプラノ・コンサート】 入場者数 35

⑦	
⑤	
④	

〔コメント／大器晩成かも知れない。以前と比べて、とてもうまくなっている。今後に期待。評価⑥点〕

- ・若さいっぱい、これからですね。

【吉田章一バトン】 入場者数 28(63)

⑥⑦⑦ ⑥ ⑤	

〔コメント／演奏には全く問題なし。素晴らしいコンサートだった。良い演奏であれば、聴衆は自然とついてくると言われるが、これほどレベルの高い演奏でも、聴衆は興味を持たない典型である。しかし、この素晴らしい演奏家は、聴衆にアピールし続けるのがアザレアのまち音楽祭の使命であると考えます。その素晴らしさを、解ってもらふ工夫が主催者サイドに課せられた課題である。評価⑨点〕

- ・聴衆が少ないのが本当に残念。
- ・なんで…。
- ・(シューベルトの)三大歌曲(集)は素晴らしい。吉田さんの取り組みはマルだと思います。

【鳥取雅友会雅楽演奏会】入場者数 64 (79)

⑦⑦	⑦

〔コメント／雅楽も、ここまで上手くなると欲が出てくる。プロの演奏のような、音の美しさを十二分に聴かせられるような、修練を積んだ演奏を期待してします。無い物ねだりかも知れないが、それを目指さなくては、横町のご隠居の義太夫と同じことになりそうでもったいないと思う。解説される方の上手さが光っていた。評価⑦点〕

【佐々木道也クラリネット・コンサート】入場者数 96 (121)

	⑩ ⑧⑨

〔コメント／懐かしさと心洗われる音楽で評判をとっているコンサートです。音楽には、技術的な面と音楽的な側面の二つがあります。佐々木さんのクラリネットは圧倒的に音楽性に溢れた演奏であり、文句なく聴衆を虜にする凄さを持っています。素晴らしい。評価⑦点〕

・みんなが楽しんでいるように思う。

【小椋美香子・米澤幸コンサート】入場者数 94

	⑧⑧

〔コメント／よく練習をしている。声質が異なるアンサンブルの難しさは、なかなか克服できないが、聞かせどころを押さえた演奏となった。評価⑦点〕

・(アザレアのまち音楽祭)初の二重唱◎。

【佐々木まゆみソプラノ】入場者数 102 (89)

	⑩ ⑧⑨⑨

〔コメント／みささ美術館の初めての声楽コンサートであったが、会場の響きの良さと相まってソプラノの美しい声が官能的に響いた。素晴らしい。ただ問題は、ピアノがアップライトしかなく、音楽づくりの微細な表現が吹っ飛んでしまう危険があった。評価⑨点〕

・美術館は客席が平面で、後方ではちょっと見づらかった。

【塩崎めぐみメソソプラノ】入場者数 75

	⑧⑩ ⑧

〔コメント／2004年の第22回の音楽祭に出演しているが、その時の面影はみじんも残っていない。全く別人のプロの歌手の歌声になっていた。今回は、全てフランス語の歌があったが、流石と思わせる出来であった。あとは、聴衆を自分の音楽にどう誘うかが課題のように感じられた。評価⑧点〕

・堂々としていて素晴らしい。演奏、プログラム作りも素晴らしい。

【杉山清香クラリネット・コンサート】入場者数 59 (54)

⑦⑧	⑨
	⑦

〔コメント／すっかりベテランの音楽にうなっていた。音楽づくりは常に安定しており、楽しんで聴くことができた。評価⑦点〕

・良い演奏だったと思います。

・定着している。

【渡邊寛智バス・コンサート】入場者数 327

	⑨⑩ ⑨

〔コメント／文句なしの出来であった。選曲の妙ものを射っていたし、エンターティナーとしての資質も感じられ、鳥取県に久しく存在しなかったバス歌手が身近にできた喜びに浸っている。凄い。評価⑨点〕

・演奏はすばらしい。途中のおしゃべりがすこし…琴浦弁ですか？

【アザレア・サロン・オペラ】入場者数 70

	⑨ ⑧⑨

〔コメント／映像を使う新しい試みが、ある程度成果をもたらせた。演奏は、既に幾度も上演したメンバーであり、素晴らしい出来であった。音楽的には、文句なし。評価⑦点〕

【木村恵理ファゴット・コンサート】 入場者数 58 (44)

⑦⑦	⑨ ⑧

〔コメント／いまさらながらテクニックの上手さには舌を巻いた。一部の曲など、他の楽器のための曲をファゴットで吹くと言う超絶技巧を弄しての演奏は、それだけで興奮させられた。しかし、問題が無い訳ではない。二部に取り上げた、オペラのアリアは、様式変換が上手く手直しされておらず、違和感があった。オリジナルを大切に作る心構えがなければ、頓珍漢となる。評価⑦点〕
・今回プログラムに取り上げられた歌曲など、素人には楽しめました。

【逸見康孝ヴァイオリン・コンサート】 入場者数 99 (78)

	⑩⑩ ⑨

〔コメント／プロフェッショナルとしてのスタンスを見せる演奏であった。しかし、一部の現代音楽は、聴衆を飽きさせた。聞かせ方に工夫が必要だと思った。評価⑨点〕
・安定している。

【西岡千秋バリトン・コンサート】 入場者数 92

	⑧⑨⑨ ⑨

〔コメント／手慣れ過ぎて、手を抜いているのではと感じさせた。もっとプログラミングの研究をすべきだと感じた。西岡千秋らしさに欠けた。評価⑧点〕

【吉田明雄ヴァイオリン・コンサート】 入場者数 297

	⑧⑨

〔コメント／素晴らしく良くなっている。年を追うごとに目を見張るものがある。今後は、バッハのパーティータなどに挑戦し、自分自身の音楽をどのように作るのかを体験してほしい。まだ、借り物の音楽のように聴こえる。評価⑦点〕
・何か違う感じがする。

【ファイナル・コンサート／合唱】入場者数 553

	⑧ ⑧ ⑦

〔コメント／小学生の合唱レベルがとても高い。中学生の吹奏楽と比べると、宮沢賢治風に言えば兵隊と子供の差である。近年、上灘小学校が、明倫や成徳と並ぶようになってきた。素晴らしい。「みささコールげんげ」は久しぶりの登場であり、すっかりメンバーが若返っていて驚いた。今後に期待。「コーラスはわい」は、近年になく雑な仕上がりになっていた。もっと巧いはず。赤碕の「まどか」は、例年と違う美しい合唱の声になっていた。ピアニストも光る。「ザ・ラニアル」はかなり仕上げているが、選曲がまずい。「みお」は合唱の王道を行く感じであり音楽的であった。「ウインドミル」は、これまで体験したことのない新しい次元のコーラスを掴んでいた。「倉吉女声」はベテランの貫録を示した。いつも新鮮な驚きを聴かせた「こさじ」は、旨みを増している。評価⑦点〕
・どの合唱団も良く歌っていた。

【ファイナル・コンサート／寺内智子ソプラノ】

	⑨ ⑧⑧⑨

〔コメント／どの曲も手慣れた曲であり、安定していた。しかし、寺内智子レベルであれば、何度聴いても毎回新鮮な感興を提供すべきだと思った。コンサートに緊張感が足りない気がした。評価⑧点〕
・声の調子がもう一つだったかも。
・ソリストの方の声は、やはり違うと思いました。
・常に素晴らしい声で、日ごろの訓練を感じる。

企画実行委員の総合的な評価

○今年も、コンサートの演奏レベルが高く、聴きごたえ十分のコンサートが多くて、うれしい限りでした。動員も、定員以上の賑やかなコンサートも多くあり、近年、お客様が増えています。招待チケットを減らしても、昨年並みの動員数だったのでしょうか？唯、経営面からみて、収支がどうだったのでしょうか。定員に満たないコンサートもありましたから。コンサートのスケジュールが一週間、毎日になることもあり、数を少し減らして、運営的にもゆとりのある日程を組んだら、とおもいます。
○初めて関わらせていただきましたが、会長様、事務局の方、委員の皆様の運営の仕方は、大変勉強させていた

だいたところでは、演奏のことはよく分かりませんが、聴きたかった方のコンサートのCDもコピーして頂きました。行事・業務が重なってしまいましたが、来年度は多く参加し、生の演奏の素晴らしさを感じたいと思います。

〇オープニング、ファイナルは安定したように思う。サロンコンサートは、入場者の多い、少ないが大幅に差があり、どちらにも問題点があるように思う。経済効果としては大入りはうれしいが、そのことで、苦情が出るのも、どうかと思う。

〇まず、オープニングの初日が素晴らしかった。全プログラム聴きたいと思いますが、練習(自分の団体)とお客さんと当番と…だんだん無理になってきました。忙しいけれどもうれしい一ヶ月半です。(体力をつけておこななくちゃ)実行委員会に若い力が欲しいですね。

ディレクターの総括

総合的な評価

アザレアのまち音楽祭は、毎年、経済尺度を横軸にし、音楽的なミッションを縦軸にして評価しています。音楽祭が目標としている「理想的ゾーン」に入るコンサートが77.4%(昨年63%)、「理想追求型ゾーン」に入るものが22.6%(33%)であり、昨年見られた「利益追求型ゾーン」に入るものはありませんでした。

昨年度の音楽祭で問題点になった、全体的な観客動員数の割に、経営的に赤字を出していましたが、今年は大きく改善され、黒字決算となりました。しかし、そうは言っても観客動員数が足りない催しが26%(33%)もあり、徐々に改善されていますが動員数のばらつきは是正する必要があります。

今年度の全入場者数に対する、招待チケットの占める割合が14.5%(昨年28%)と、半減しました。しかも、入場総数も4,555人(昨年3,628人)と大幅に増加しています。昨年度の反省を踏まえた取り組みが功を奏した結果だと喜びに堪えません。過去の例から更なる啓発を怠れば赤字財政に戻りかねませんので運営組織体に油断があってはなりません。

アザレアのまち音楽祭は赤字を出さないことが是であり、組織の健全化の要であります。昨年度は、赤字を出しましたが、今年は助成金(40万円)があったものの、それ以上に経営努力のお蔭で黒字化することができました。しかし積極的なスポンサー依頼活動が停滞し、役員内部でのスポンサーも必要となってしまった。そのため、スポンサーなしのコンサートが二つ出来てしまった。

ちなみに、一昨年度のスポンサー数は31件、昨年度は25件で、今年は23件と減少傾向にある。また、協賛については、一昨年162件、昨年度が153件、今年度が151件と減少し続けている。実行委員の一人一人が、更なる意欲と努力が必要だと総括したい。

コンサート内容については、これまで通り概ね良好でありました。

アンケート調査では、今年は異変が起きました。昨年までは、顧客の大半が女性客であり、昨年は74%ともありました。ところが今年は、男女が逆転し、男性客51.1%、女性客48.9%との結果が出ています。

年齢層では、70歳代以上が31.7%(35%)、60歳代も32.3%(31%)と高く、60歳以上を合わせると64%(66%)と例年通りのデータになっています。

コンサートの満足度については、大変満足が65.4%(69%)、満足が34.6%(30%)であり、相変わらず高い評価をいただいています。

コンサート様式について、ポピュラー音楽の導入を希望される方が32.9%(33%)と昨年とほぼ同じ傾向がありました。しかし、今後考慮するにしても、音楽祭の根幹にかかわる大きな問題も含まれますので、当分は静観したいと思います。

アザレアのまち音楽祭の特徴である地元在住の音楽家の招聘について、中央からの招聘を望む方が31.6%(44%)と下がっていますが、それなりの努力が容認されたのではないかと考えています。

料金設定も現状維持を望まれる方が52.6%(67%)と減少し、700円から1,000円への値上げ支持が28.1%もありますが、安易な値上げは音楽文化の活性化に水を差すことになる危険性があるのではと思われます。したがって、これまで通り、低料金で高品質なコンサートを提供する姿勢を貫きたいと思います。とはいうものの、次年度以降の検討課題として温存させるべきかもしれません。